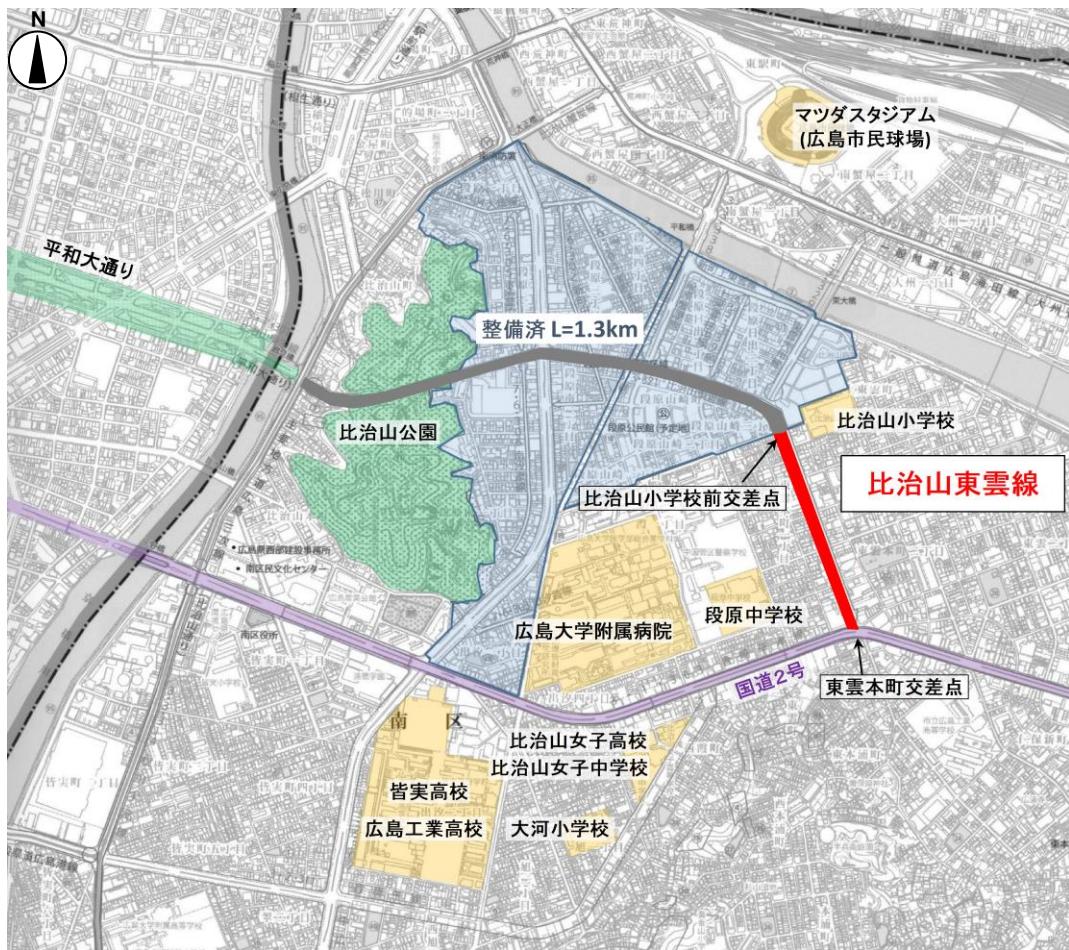


道路整備の概要

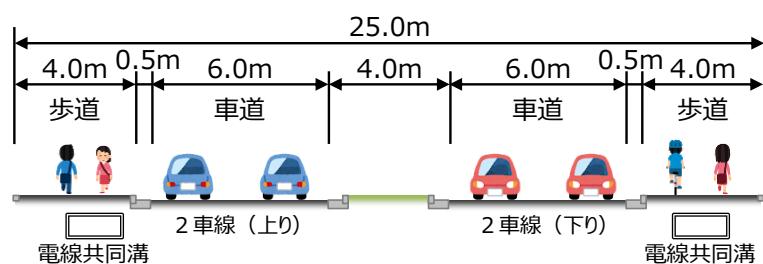
都市計画道路比治山東雲線は、広島市のデルタ市街地東部地区において、平和大通り東端から段原土地区画整理事業地区を経由し、国道2号へ至る幹線道路です。

整備の概要

- 道路延長：550m（比治山小学校～国道2号）
- 道路幅員：25m（9m→25mへ拡幅）
- 車線数：4車線（1車線→4車線化）
- 事業期間：平成10年(1998年)8月～令和2年(2020年)8月
- 事業費：76億円
- 道路規格：第4種第1級 ■ 設計速度：50km/h



標準断面図

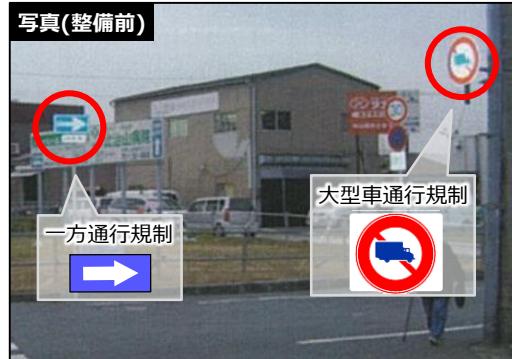
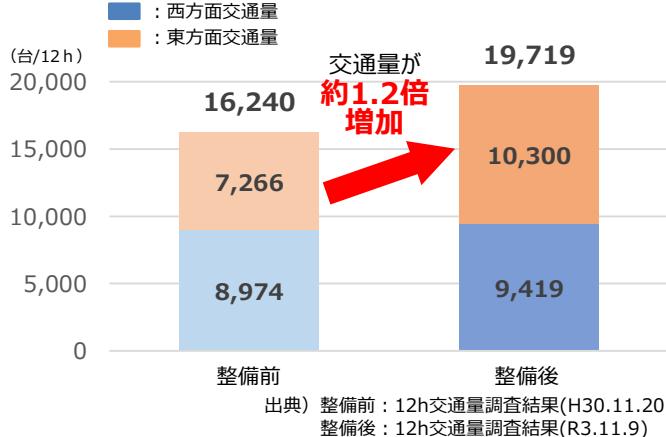


交通状況の変化

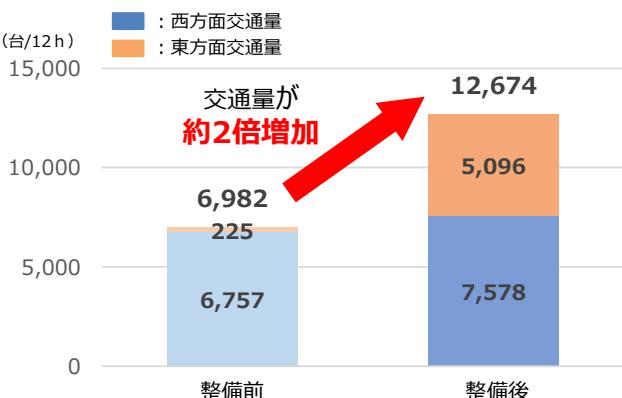
- ・比治山東雲線の全通により、利用交通量が増加しました。
- ・大型車の通行規制も解除され、大型車の通行ができるようになりました。



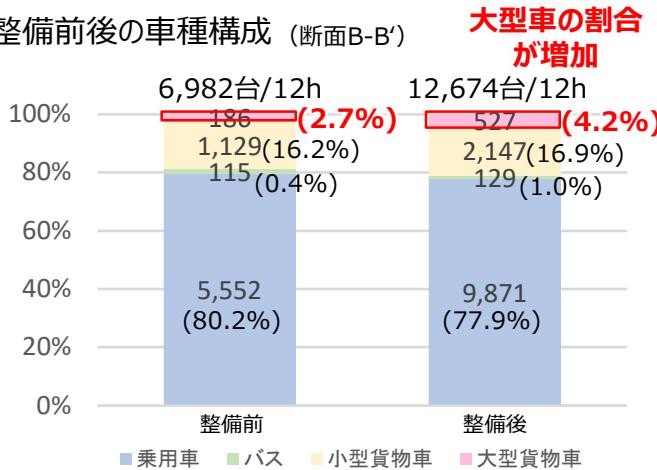
■ 段原中央交差点の交通量の変化 (断面A-A')



■ 上東雲交差点の交通量の変化 (断面B-B')

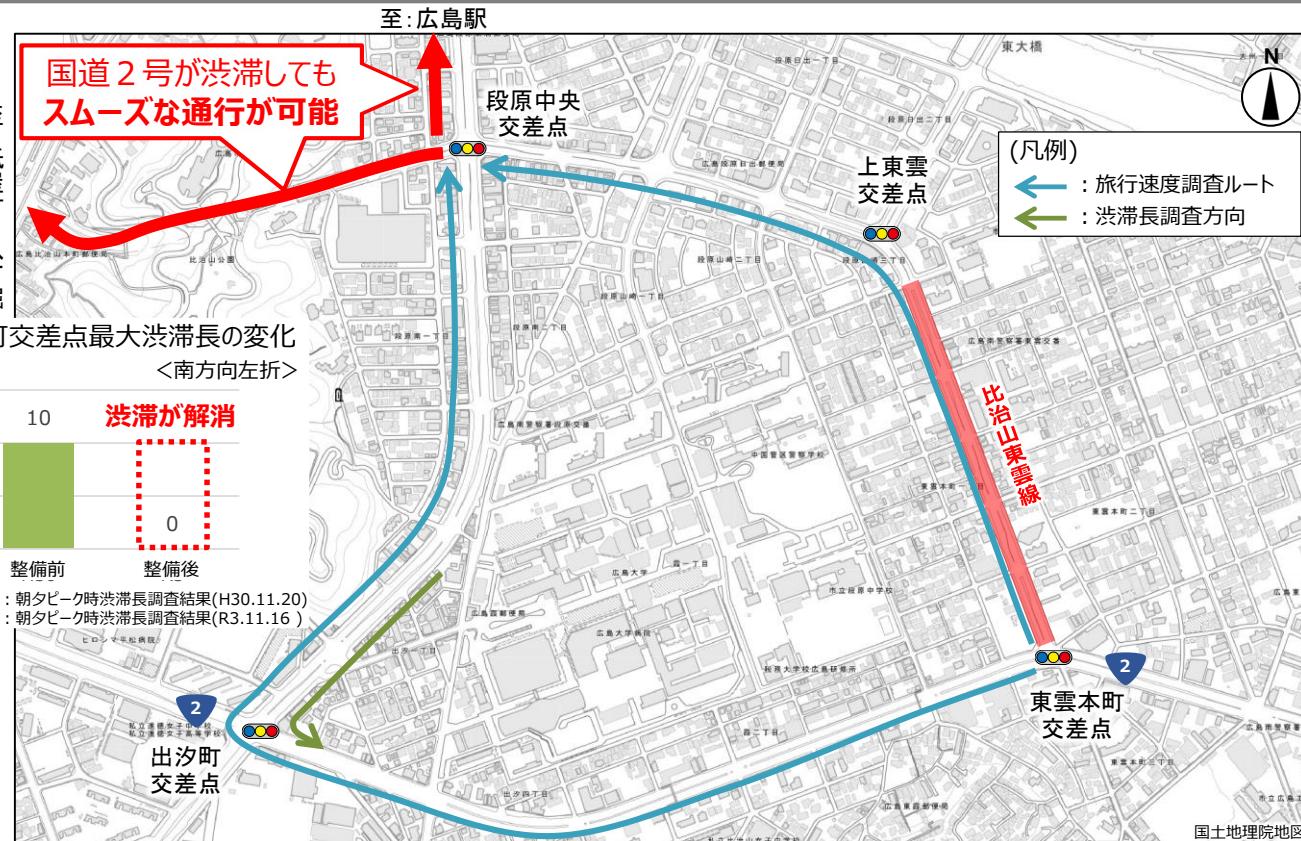


■ 整備前後の車種構成 (断面B-B')



アクセス性の向上

- 出汐町交差点の渋滞が解消し、東雲本町交差点から段原中央交差点への旅行速度が向上しました。
- 紙屋町・八丁堀、広島駅方面に向かう車両がスムーズに走行できるようになりました。



旅行速度の変化

<東雲本町→上東雲→段原中央交差点> <東雲本町→出汐町→段原中央交差点>



【地域の声（地域住民・バス事業者）】

- 見通しも良く渋滞しなくなったので、走りやすいと思う。
- 渋滞しなくなったので沿道から出やすくなった。
- 車線が増えて道幅も広くなったので、スムーズに走行できる。
- 緊急車両が渋滞にはまる事が無くなり、早く着くようになった。
- バス運転時に走行環境が良くなり走りやすくなった。

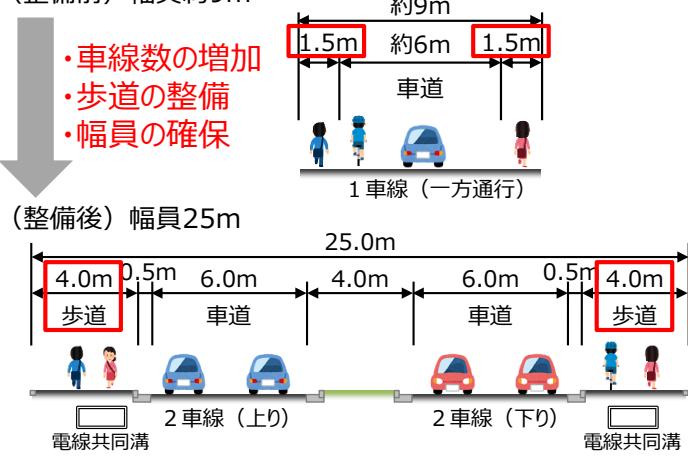


歩行者・自転車の安全性向上

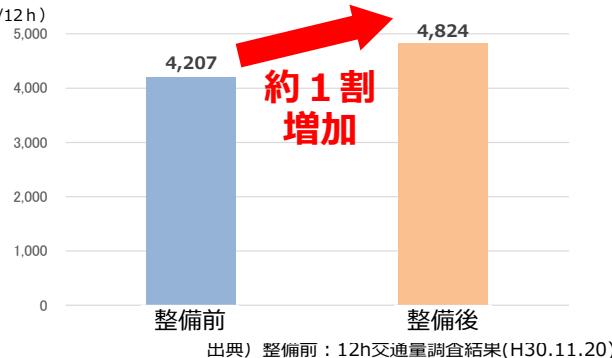
- ・歩道整備、歩行者通行帯と自転車通行帯の分離を実施することにより、歩行者・自転車等が安全に通行できるようになりました。
 - ・歩行者・自転車等の利用交通量が増加しました。
 - ・事故の心配が減り、通学時間帯も安心して通行できるようになりました。

■整備前後の横断図

(整備前) 幅員約9m



■歩行者・自転車等交通量の変化



■ 通学路図



【地域の声（地域住民・学校関係者）】

- ・以前と比較しても比治山東雲線の整備により車道と歩道が明確に分離されたため、登下校時の事故の心配が少なくなった。
 - ・以前は朝夕の小学生が通る時間に危ないと感じる事が多かったが、整備後は無くなつた。



【地域の声（地域住民）】

- ・広くなったので、自転車とすれ違う時も安心して通行できる。
 - ・段差の少ない歩道が整備され、ベビーカーやシルバーカーを利用しやすくなった。
 - ・車いすでも通行できる幅の歩道が整備されて利用しやすい。
 - ・以前は通学時間帯にバスを待っていると狭くて少し怖かった。
 - ・バス停車場が広くなって朝の乗車がスムーズになった。



災害に強く景観に優れたまちなみ

- 電線類地中化、無電柱化により、大規模災害発生時の供給支障被害率が低下するとともに、電柱が倒壊することによる道路の寸断を防ぐことができるようになりました。あわせて、景観のよい街並みになりました。
- 道路拡幅により延焼防止区域が広がり、延焼停止率が60%から100%に向上しました。

■ 阪神・淡路大震災、東日本大震災時のライフラインへの被害状況

		供給支障被害状況(被害率)		電柱の倒壊等
		架空線	地中線	
阪神・淡路大震災	通信	2.4%	0.03%	約3,600本
	電力	10.3%	4.7%	約4,500本
東日本大震災	通信	8.8%	0.4%	約28,000本
	電力	(データなし)	(データなし)	約28,000本

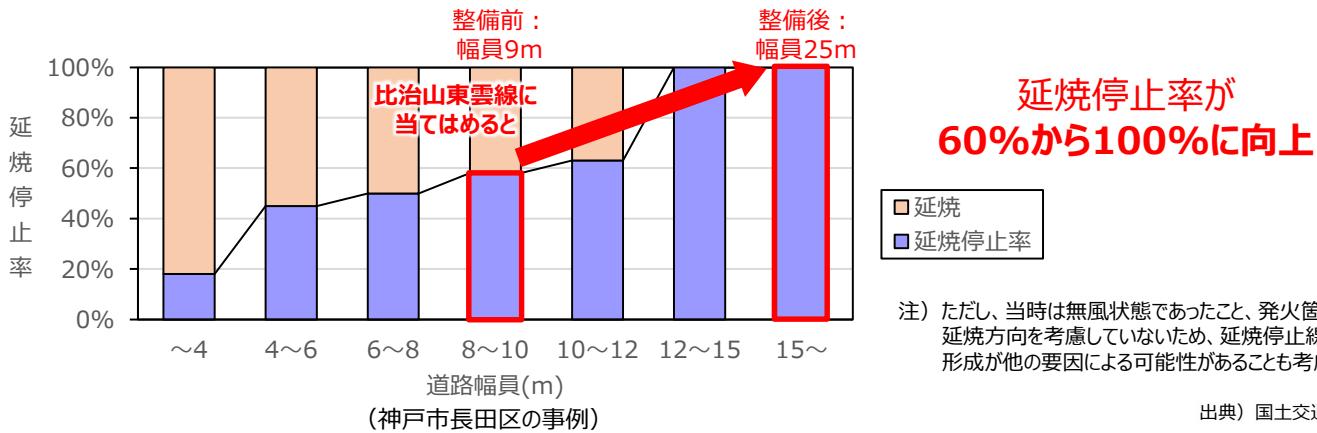
- 電線を地中化することにより供給支障被害率が低下
- 電柱の倒壊による被害を防止

比治山東雲線に当てはめると

出典) 国土交通省HP



■ 阪神・淡路大震災時の延焼停止率



【地域の声 (地域住民)】

- 無電柱化により視界を遮る物が無くなり、車の運転がしやすくなった。
- 道幅が広くなったので、避難がスムーズにできると思う。
- 火災・地震時の倒壊・延焼リスクが減った。
- まちなみがきれいになって、歩く事も多くなつた。

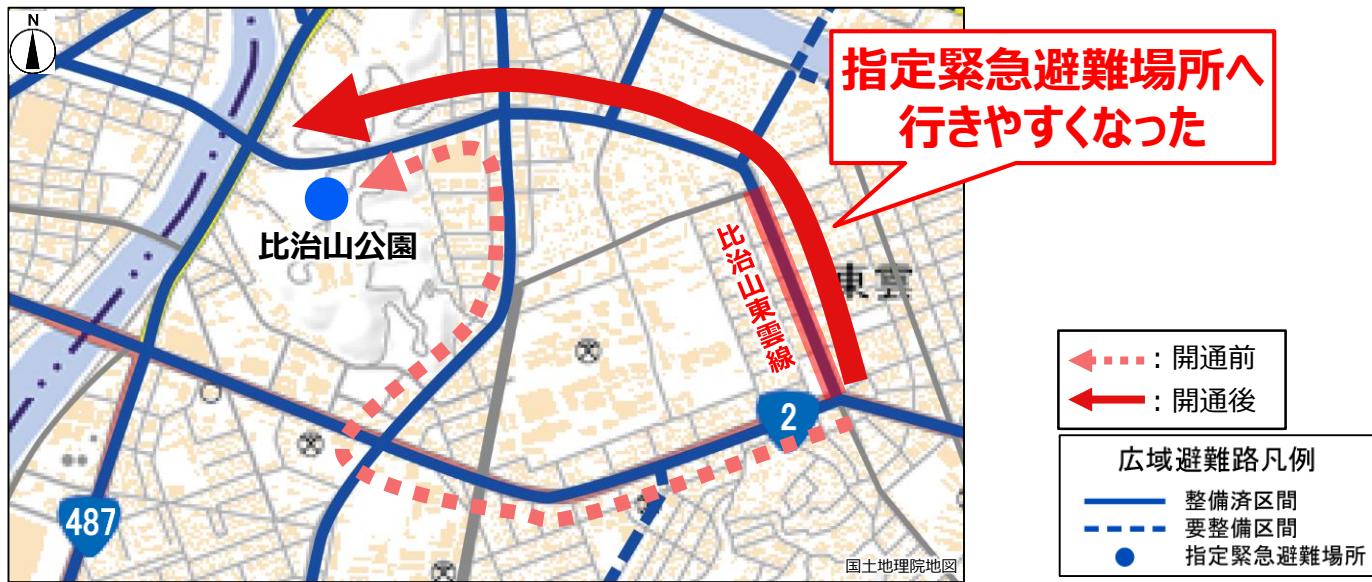


リダンダンシーの確保

- ・災害時に広域避難路や緊急輸送道路として利用できるようになりました。
- ・国道2号が通行止めとなつた時に迂回路として走れるようになり、リダンダンシーが確保されました。

■広域避難路として位置づけ

広域避難路：延焼拡大のおそれのある市街地から指定緊急避難場所（大火）へ至る避難路で、広域避難上支障のない幅員（原則として15m以上）を有する道路等



■緊急輸送道路として位置づけ

緊急輸送道路：地震直後から発生する緊急輸送を迅速かつ確誠に実施するために必要な道路であり、道路の耐震性が確保されているとともに地震時にネットワークとして機能する道路

